

# 「くくまもり」の仲間を増やすために

しみず たかし  
清水 崇史  
(しがく総合研究所所長)

我が国は、終わらないデフレ不況、脆弱な安全保障体制など、多くの課題を抱えている。その原因の共通点は、官僚や一部の既得権益を持つ団体が政治家よりも強い発言権をもち、彼らの意向が強く政治に反映されてからである。その結果、デフレ下の増税、新型コロナ対応の迷走など、国民の幸せに逆行した政策が打たれている。

日本をより強い国にして護る「くくまもり」には、強い政治家が日本の未来につながる政策を打てる状況を作らなければならない。政治家の力の源泉は国民の支持であり、国民の強い声があれば、政治家は真剣に課題に向

かう。しかし、近年の低い投票率からも分かるように多くの国民は政治に無関心である。このままでは、政治家は国民ではなく、官僚の方を向き続け、我が国の課題は解決しないだろう。

この現状を打破するために、日本の未来を担う若者の意識を変え、政治に関心を持つ仲間を増やす目的で立ち上げたのが「しがく総合研究所」である。平成二十八年の発足以来、日本を護るために欠かせない「皇室」「水」「エネルギー」「政治経済」「軍事外交」など、それぞれのテーマにおける課題を整理し、解決に向けた道筋を考案、そして提言している。

研究員は、本業を持つ若手社会人や学生が中心で、これまでに五十人程が参画している。彼らが日々研究したことを整理し、若者を対象として、のべ七千人以上に講演、冊子を配布してきた。

しがく総合研究所の情報発信で重視していることは「面白くってタメになる」である。仲間を増やすには誰が聞いても分かりやすく、面白いと思える伝え方が大切であり、難しい内容をいかにかみ砕き、伝えていけるのかを重視している。その結果、「日本の現状を知り驚いた。もっと学んでいきたい。」など、多くの若者からの声が上がっている。政治を身近で重要な問題だと捉えた者も多く、「くくまもり」の輪が徐々に広がっていることを実感している。

仲間を増やす重要性は研究所内にもあり、研究員たちは、同世代の仲間やライバルと切磋琢磨することで、使命感を持ち、大きく成

長することができる。教育方針は、西郷隆盛、大久保利通などを輩出した旧薩摩藩の郷中教育を取り入れている。先輩が後輩に指導する状況を作ること、指導する側も指導される側も成長する仕組みにしている。

幕末、日本を護ったのは吉田松陰や高杉晋作、坂本龍馬など、自らの使命を果たした若者である。その彼らの恩恵を受けているのが、我々現在の日本人だ。次世代に誇らしい日本を残すため、これからも仲間を増やし、我々ができる「くくまもり」を継続していく。

## ■しみずたかし■

昭和56年生まれ。慶応義塾大学卒業。民間企業勤務の傍ら、(株)キャリアコンサルティングが開催する若手社会人向け勉強会「しがく」で14年間メンバーを育成。歴史に学ぶリーダーシップ講座「二宮尊徳」「後藤新平」の講師を担当。2017年、産経新聞社主催の弁論大会「土光杯」で最優秀賞受賞。2019年、しがく総合研究所所長に就任。